

令和 8 年度 高知県立宿毛工業高等学校 第 1 回学校運営協議会 議事録

項目	詳細
日時	令和 8 年（2026 年）8 月 27 日 16:00 ～ 17:50
場所	宿毛工業高等学校 会議室
参加者	学校運営協議会委員 9 名 本校教職員（校長、教頭、事務長、各部長等） 10 名

1. 令和 8 年度 学校経営計画について（説明：校長・教頭）

教育方針とスクールミッション・ポリシー

- **教育方針:** 校訓「創造・勤勉・友愛」の定着を図り、「工業教育を通して社会に貢献できる人材を育成し、生徒一人一人の夢の実現を目指す」「就職してしっかり働ける人づくり、進学してしっかり学べる人づくり」をスローガンとして掲げる。
- **スクールミッション:** 企業や関連機関と連携し、高い専門知識や技術を持ったスペシャリスト、次世代の産業の担い手を育成する。
- **スクールポリシー:** 「主体的に学ぶ意欲を持ち、資格取得やものづくりに挑戦し、地域社会に貢献できる生徒」の育成を目指し、科目選択制の充実、ICT 機器の活用、地元企業との連携によるキャリア教育を重点的に実施する。部活動等を通じた多面からのアプローチで生徒の成長を促す。

今年度の重点項目・取り組み項目

- **学力向上:** 県の学力診断テストにおける成績向上（C 層以上の生徒の増加）を目標とし、継続的な指導を行う。
- **社会性の育成:** 地域のロータリークラブ（インターアクトクラブ）との連携を新たに開始し、ボランティア活動等の地域貢献を通じた社会性・コミュニケーション能力の向上を図る。
- **防災教育:** 他校を交えた防災キャンプ（研修会）や、地域・他校と協力した車中泊訓練などを予定。
- **教育手法:** 地域協働学習、教科横断的教育、外部人材の積極的な活用を推進する。

学校評価アンケート結果（高知県オリジナルアンケート）

- **本校の強み:** 「地域貢献への意欲（85.1%）」「自己肯定感（93.6%）」が県平均を大幅に上回っている。ものづくりを通じた社会貢献の機会や明確なキャリア意識が寄与していると分析。
- **課題と対策:** 「家庭学習の習慣化」および「スマートフォン等の長時間利用」が課

題。「授業の理解度」は高いものの、自宅学習への接続が不十分である。実習レポートや資格勉強等も立派な学習であることを生徒に再認識させ、自己肯定感を高めながら学習習慣の定着を図る。また、各教科での ICT ツール（Google Classroom 等）導入を進め、スマートフォンの用途を「遊びの道具」から「学習ツール」へと意識転換させる仕掛けを継続する。

2. 学校の特色化・魅力化について（説明：校長）

- **広報活動の強化：**今年度より、本校マスコットキャラクターを活用した公式 Instagram の運用を開始。各中学校へ案内を配布し、「出前授業」にも注力（現在 3 校で実施決定）。
- **社会的ニーズを背景とした魅力発信：**経済産業省の推計による将来的な工業人材の不足（全国で約 91 万人）という社会的ニーズを踏まえ、本校の優位性や魅力を積極的に発信し、入学者の増加へ繋げる。

3. 不祥事防止と働き方改革について（説明：校長）

- **不祥事防止：**決意表明を学校ホームページに掲載し、防止策を徹底する。
- **働き方改革：**「働きがい」を確保しつつ、削減可能な業務は着実に減らしていく方針で学校運営を進める。

4. 質疑応答・意見交換

【学校経営計画に関する質疑】

- **委員：**防災キャンプに参加する他校の範囲はどのようになっているか。
学校：幡多地区の学校全体に案内をかけて実施している。
- **委員：**ICT 教育の具体的な取り組みについて教えてほしい。
学校：Chromebook の貸し出しをはじめ、探究的な学びでの活用や、各教員が効果的なアプリを授業に取り入れるなど活用を進めている。
- **委員：**部活動における外部人材（指導員）の活用状況と、中学校での地域移行の現状はどうか。
学校：現在、体育系・文化系で各 1 部ずつ外部人材を活用しているが、幡多地域は人材確保が難しく、開始時間の遅さもあり導入ハードルが高い。単に教員の負担を地域に移行させるだけでは運営が成り立たないと危惧している。
委員：中学校でも令和 10 年までの完全地域移行が目標とされているが、現状は難しく、一部の部活動に外部指導員がついている程度である。
- **委員：**社会性（コミュニケーション能力等）を伸ばすための工夫は何か。
学校：実習や課題研究での協働作業に加え、現場見学、インターンシップ、ボランティア等を通じて外部の大人と接する機会が多いことが育成に直結している。

【学校の特色化・魅力化に関する質疑】

- **委員:** 少子化等の影響で、特定の部活動を目的として市内の私立高校へ進学する生徒が一定数いるが、学科再編の動きはどうか。電気や情報など重要分野の人気を高める必要がある。
学校: 生徒数減少に伴い教員数も削減される形となる。大手企業からの求人が多数あるという優良な就職実績を、中学生や保護者へ十分にアピールしきれていないことが課題である。
- **委員:** 中学校の教員や保護者に対して、積極的な PR 活動が必要である。特に第一子の進学を控える保護者へのアプローチが重要になる。
学校: 高校からの PR が保護者にどれだけ浸透するかが今後の課題と認識している。
- **委員:** アンケートで「授業外で勉強していない」生徒が約 40%いる実態はどうか。
学校: 実際にはレポート作成や放課後補習等に取り組んでおり、生徒本人がそれを「勉強」と認識していないケースが多く、実態としての割合はもっと低いと考えている。
- **委員:** 小中学生向けに文化祭等で体験的な催しを提供することや、高知県のポータルサイト等を活用した魅力発信、SNS を通じた効果的なアピールを検討してはどうか。

【不祥事防止に関する意見交換】

- **委員:** 中学校では毎学期取り組みを報告し、トップダウンだけでなく教職員からのボトムアップで改善案を検討する研修を実施している。
- **委員:** 職場における不祥事防止策として、資料のデータ化を進め、「情報の共有化」を徹底することで、特定の個人しかできない仕事（属人化）を解消する環境づくりが有効である。

※次回の学校運営協議会は、令和 9 年 3 月 9 日（火）に開催を予定しております。